

目次

- ・ 深川古石場発電所……藤川卓爾 (pp. 2 - 4)



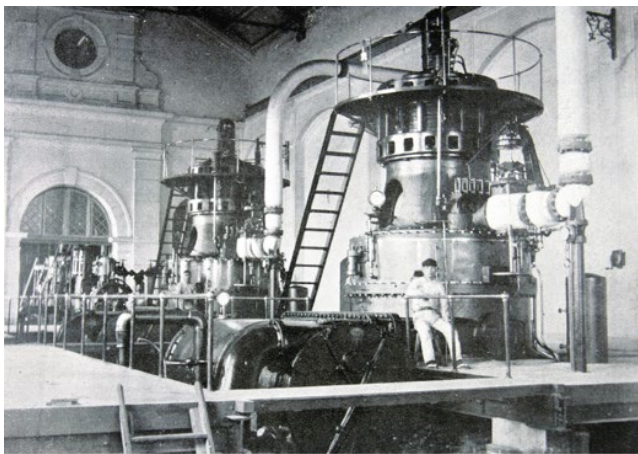
編集委員会より：本文で紹介されている深川古石場発電所は路面電車の運行用電源として建設されたといえます。そこで、1910年頃に丸の内（馬場先門通り）を「東京鉄道」が走行する様子を捉えた写真を掲載します。背後に東京商業会議所や三菱煉瓦街が望めます。本写真は、小川一眞出版部の『東京風景』（明治44年）に所収ですが、保護期間満了により著作権は消滅しています（パブリックドメイン）。

深川古石場発電所

藤川卓爾（S42/1967卒）

日本で最初に蒸気タービンで発電が行われたのは東京の深川古石場発電所である。明治37年（1904）のことである。日本では明治20年（1887）に火力発電が開始されたが、この時は往復式の蒸気機関が使用された。

私は平成22年（2010）に「火力原子力発電」に「蒸気タービンの歴史」を寄稿した。この時に、日本における蒸気タービンの歴史を調査した。深川古石場発電所に続いて蒸気タービンで発電したのは横濱共同電燈（後の横浜電気）の裏高島発電所である。東京電力（株）の「電気の史料館」所蔵の小松吉次郎著「横濱電気株式会社沿革史」に裏高島発電所の蒸気タービンの写真が掲載されているのを見つけた。この発電所の跡地には現在はマンションが建っており、二代目の横浜駅基礎遺構と裏高島発電所の取水口と導水管が残されている。



〔出典〕小松 吉次郎「横濱電気株式会社沿革史」，（1922-6）

〔提供〕東京電力(株)電気の史料館

〔出典〕藤川卓爾「蒸気タービンの歴史（その2）」、
火力原子力発電、No.647、Vol.61、（2010-8）



横濱電気裏高島発電所カーチスタービンと二代目横浜駅基礎等遺構銘板

「蒸気タービンの歴史」を「京機短信」（京機短信226号）に転載させてもらったところ、一般の読者（深川古石場の郷土史研究者と思われる）から連絡があり、深川古石場発電所の煙突が描かれた風景画を送っていただいた。残念ながらその後この絵を紛失してしまった。この度、その絵を探そうと思い立って現地を訪れた。江東区在住の同期の平尾 隆さんが「そういう郷土史の資料があるだろう」と

案内してくれた深川図書館でその風景画が掲載された書籍を見つけた。



〔出典〕 監修 宮尾しげを、西川喜浩、「東京名所図会 深川区・深川公園之部」、
睦書房、(1969-4) 〔提供〕 深川図書館

深川古石場町潮除堤の眺望（発電所の煙突が見える）

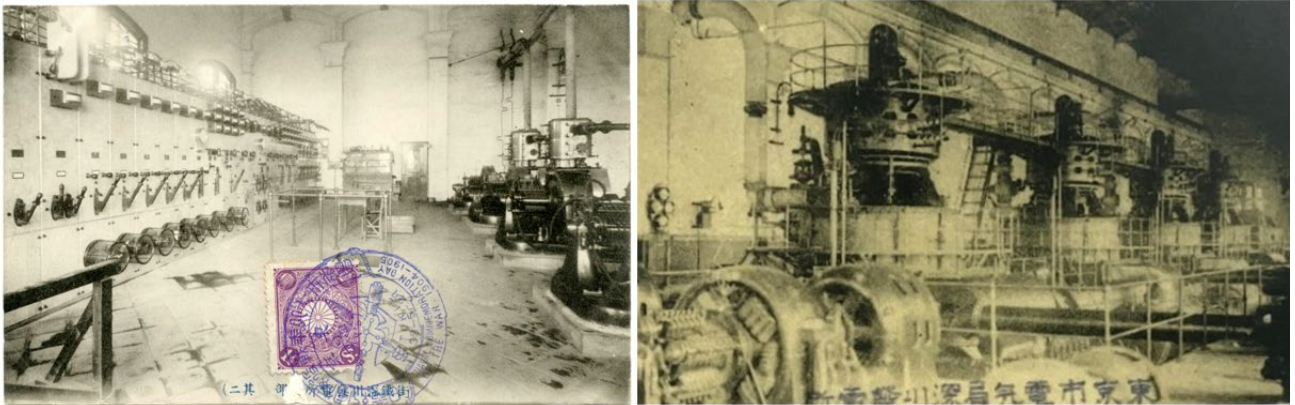
現在、発電所があった場所には「古石場文化センター」が建っているが、発電所の遺構は何も残っていない。現地を訪れたときには気が付かなかったが、その後生成AIを使って調べていたところ、藤城 直氏のブログで「古石場文化センター」の前の案内看板にタービンの写真が出ていることを見つけた。この看板には上掲の風景画も掲載されていた。



〔出典〕 東京市街鉄道株式会社深川発電所跡 - ふじ・ふじブログ

「古石場文化センター」と発電所の案内看板

看板の説明書きにタービンの写真は江東区教育委員会所蔵の絵葉書とあったので、教育委員会にお願いしてコピーをいただいた。



〔出典〕 絵葉書 〔提供〕 江東区教育委員会

深川古石場発電所内部とカーチス蒸気タービン

左側の絵葉書には切手が貼られていて、スタンプが押されている。日付は明治39年（1906）5月27日で、“NAVAL COMMEMORATION DAY OF THE WAR 1904—1905”と書かれている。前年の5月27～28日の日本海海戦の記念スタンプのようである。タービンの写真は前掲の横濱電気裏高島発電所のタービンの写真と少し外観に差があり、かつ、タービンが4基並んでいるので翌年（1905）に増設された1,500kWタービンのものと考えられる。

